

## 研究主題「地域校と連携したユニバーサルデザインによる中学校社会科の教材開発 －病弱教育の視点を取り入れた一単元の学習計画を通して－」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
東京都立久留米特別支援学校府中分教室わかば教室 主任教諭 川池 順也

### 第1 研究のねらい

昨今通常の学級において、小学校の国語科や算数科をはじめとする授業を「視覚化」「焦点化」「共有化」する手だてを取り入れ、全員が分かる「ユニバーサルデザインによる授業づくり」の研究が進められている。久留米特別支援学校は、都内唯一の病弱特別支援学校であり、病気の治療が終わると地域の通常の学級に戻る児童・生徒のための教育課程も編成している。この教育課程では、病気の治療等のために授業時数が制限される場合が多いため、1単位時間ごとに知的好奇心を喚起し、「探究心」を育む指導の工夫を行っている。「探究心」は授業に対する意欲から生じる。病弱教育の視点を取り入れた「ユニバーサルデザインによる授業」を地域の通常の学級において行えば、集団の学びやすさや、生徒一人一人の学習意欲の向上、ひいては学級全体の学力の向上につながるのではないかと考えた。

そこで本研究のねらいを、地域の学校の授業担当者と連携して、中学校社会科の一単元の単元指導計画と学習教材の開発を行い、検証授業を通して手だての有効性を検証することとした。

### 第2 研究の内容と方法

#### 1 研究仮説

意図的・計画的に病弱教育の視点を取り入れて、地域の通常の学級におけるユニバーサルデザインによる単元指導計画と学習教材を開発し、それらを活用して授業を行えば、地域の学校における学級全体の授業の学びやすさと生徒一人一人の学習意欲の向上を図ることができるだろう。

#### 2 基礎研究

##### (1) ユニバーサルデザインによる授業づくりの定義について

基礎研究としてユニバーサルデザインによる授業づくりについて文献調査と実践事例の収集・分析を行い、以下のように考え方を整理した。

- 特別支援教育の視点を地域の通常の学級における教科教育に取り入れるという考え方
- 地域の通常の学級における特定の児童・生徒を念頭に授業改善や指導方法を工夫すると、他の児童・生徒も意欲的に学習に取り組むことができるという考え方
- 地域の通常の学級において、特別な配慮が必要な児童・生徒に必要な支援は、全ての児童・生徒にも有効な支援であるという考え方

本研究では、ユニバーサルデザインによる授業者の手だてを次のように定義した。

学級の全ての生徒へのよりよい支援を授業の中で実現するための授業者の手だて

##### (2) 中学校社会科におけるユニバーサルデザインによる授業づくりについて

中学校の社会科におけるユニバーサルデザインによる授業づくりの実践例については、大学や大学院の研究としての取組が進められているものの、まだ報告例が少ないことが分かった。

中学校学習指導要領第2章第2節社会の地理的分野の目標には、「様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や

態度を育てる」(平成20年3月告示)とあり、この態度を授業で実現させるためには、ユニバーサルデザインによる授業づくりの「視覚化」「焦点化」「共有化」の手だてが有用であると考えた。例えば、地図や写真などの資料をICT機器を用いて「視覚化」して提示し、学習問題を「焦点化」して取り組ませる活動や、探究課題について資料に基づいて自分の考えをまとめて話し合い「共有化」して判断することで、新たな自分の考えをワークシートにまとめる活動などである。また「視覚化」「焦点化」「共有化」の手だてを取り入れた学習活動の展開と学習教材を開発することが、授業のねらいの実現と意欲の向上につながると考え、どのようなユニバーサルデザインによる授業づくりの手だてが有用であるかを検討することとした。

### 3 調査研究

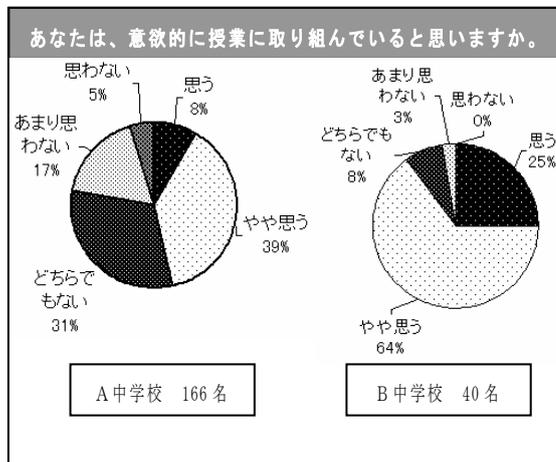
平成23年10月に都内にある公立A中学校とB中学校の2校の研究協力校において、第1学年の生徒を対象とした意識調査を行った。主な質問項目は①「学習内容を理解するために求めている手だて」②「現在の学習環境についての意識と学習への意欲」の2点であり、2校の生徒が授業に求めている手だてについての整理と分析を行った。結果、①「学習内容を理解するための手だて」では、肯定的な意見として整理した上位3項目は、表1のようになった。また検証授業前の両校の生徒の「社会科の授業に対する意欲」は図1のようになった。

この調査から生徒は、写真や動画の学習問題としての提示や隣の友達と話し合う活動、明確な指示などを求めていることが分かった。また授業に対する意欲について否定的な回答を示した層について抽出し、強く求めている手だてについて検討をした。全体で求めている手だてと大きな差異はなかったが、友達と話し合う活動をより強く求めていることが分かった。

表1 生徒向け 事前調査結果の肯定的な回答の上位項目

| A中学校 生徒 166名                                | 順位 | B中学校 生徒 40名                                  |
|---|----|--|
| ○授業では、隣の友達や班で調べたり、話し合う活動が多くあると取り組みやすい。【81%】 | 1位 | ○学習では、模型や写真やビデオなど実際に「見える」ものを使ってもらいたい。【92%】   |
| ○学習では、模型や写真やビデオなど実際に「見える」ものを使ってもらいたい。【71%】  | 2位 | ○授業では、隣の友達や班で調べたり、話し合う活動が多くあると取り組みやすい。【87%】  |
| ○学習することは、短く、そして、分かりやすく説明してもらいたい。【64%】       | 3位 | ○授業の「目的」「復習」などを表すテロップ(カード)を黒板に貼ってもらいたい。【76%】 |

図1 生徒を対象とした授業への意欲に対する事前調査



### 4 開発研究

#### (1) ユニバーサルデザインによる単元立案シートの開発

生徒への調査結果を基に2校の研究協力校に出向き、社会科の担当教員と教材開発のための協議を行い、社会科の学習活動に有効に取り入れることにより、生徒一人一人が探究する活動につながる学習教材や提示方法について検討を行った。協議において、ユニバーサルデザインによる授業を具現化するための指示の工夫である写真や動画の学習問題としての「視覚化」「焦点化」そして探究課題などの情報を「共有化」して小集団や隣の友達と話し合う活動を取り入れることが、両校共に効果的であると考えた。また学習問題について、考えたり話し合ったりする際には、あらかじめ取り組む時間を指定することも大切であると話し合った。

その結果、ユニバーサルデザインによる授業づくりを効果的かつ効率的に進めるためには、

単元全体の目標を見通した1時間ごとの指導上の工夫について、「提示テロップ」「指示の明確化」「時間の視覚化」「探究課題の提示」の四つの観点に着目することが有効であることが分かった。そこで検証授業に向けて協議を進めるに当たっては、この四つの観点を取り入れた一単元の単元指導計画を想定した「ユニバーサルデザインによる単元立案シート」を開発・提案した。そして単元の目標や評価規準の確認と単元の目標を達成するためには、1単位時間ごとにどのような学習活動と指導上の工夫を取り入れるとより意欲的な活動となるかについて検討を進めた。結果として、指導上の手だてに着目した効率的な協議を進めることができた。

## (2) 探究課題を取り入れた1単位時間の授業細案の開発

単元立案シートにおいて研究協力校の授業担当者と効果的であると協議した学習活動と指導の工夫を基に、1単位時間ごとの学習活動の流れに沿った手だてを整理した「探究課題を取り入れたユニバーサルデザインによる1単位時間の授業細案」を作成してユニバーサルデザインによる授業づくりについて具現化を進めた。特に地域の通常の学級で使用されている学習指導案の「指導上の留意点」に手だてを織り込むことで、生徒の学習活動が共通理解しやすい学習指導案を提案することができた(表2)。

表2 探究課題を取り入れたユニバーサルデザインによる1単位時間の授業細案(一部抜粋)

|        |  |  |   |   |  |
|--------|--|--|---|---|--|
| 本時のねらい | 1 日本の領域の範囲を、地図上の緯度・経度や地名などから捉える。【技能・表現】<br>2 日本の領域が領土だけではなく、領海、領空から成り立っており、それらが一体的な関係にあることを捉える。【知識・理解】   |  |   |   |  |
|        | 学習活動・内容  | ユニバーサルデザインによる手だて   |   |   | 手だての留意点  |
|        |  | 提示テロップ   | 指示の明確化  | 時間の視覚化 探究課題の提示                                |  |
| 導入     | ①前時の復習をする。<br>*探究課題について確認する。<br>「行ってみたい国を1つ選び日本からその国への経路を方位や通過する海や大陸の名前を使って説明する」<br>*発表の中から日本に隣接する大陸や海洋に着目させ、近隣の国々との位置関係を復習する。<br><br>②「今日の学習」を確認する。<br>*本時は「日本の範囲を知る」ことであること。 | ①「復習」<br>②「日本の範囲を知る」<br>③「調べてみよう」<br>④「今日の学習」<br>⑤「日本の範囲はどこまで」<br>⑥「かく」<br>⑦「ワークシート」 | 指①「復習」・「世界の中心での日本の位置」のテロップを提示する。<br>指②前時の探究課題を確認させる。<br>指③発表したい人は手を挙げてください。<br>指④今の説明を前に提示した地図で説明してみよう。<br>指⑤「今日の学習」を見ましょう。<br>指⑥全員でこのテロップを読みましょう。「日本の範囲を知ろう」。<br>指⑦世界から見た日本は、狭い国なのでしょうか考えてみましょう。 | ワークシートで確認...1分<br><br>(友達発表を違う言い方で説明ができるだろうか) | 指①は、テロップに生徒が着目したことを確認して、黒板に貼る。<br>指②は、テロップを生徒が着目したことを確認して、課題についての説明を行う。<br>指⑥テロップを生徒が着目したことを確認して、黒板に貼る。【書画カメラで提示する。】 |

## (3) 生徒が学習活動に求めた視覚教材やワークシートの開発

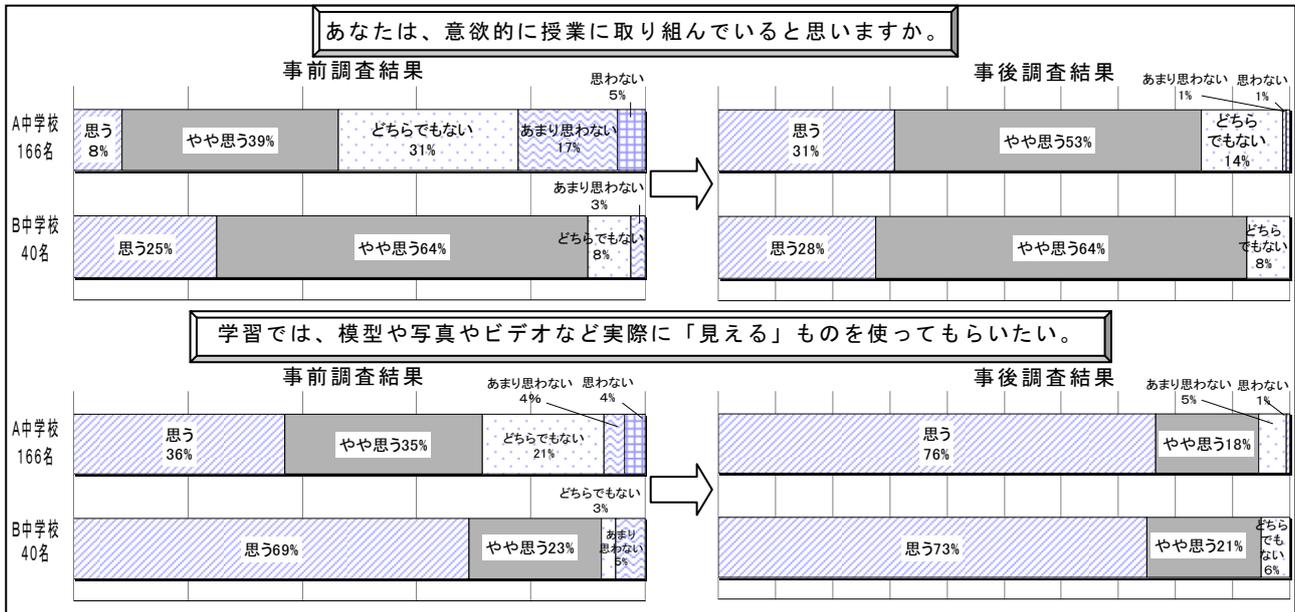
調査研究において生徒が手だてとして求めた学習教材としての動画については、学習のねらいの実現を目指して視覚教材を工夫して授業に取り入れた。とりわけ地理的分野の学習の内容である「大まかに日本地図を描けるようにすること」については、日本の略地図の描き方を繰り返し示すことができる教材を作成した。また指示を明確化する黒板に貼るテロップも作成し、プレゼンテーションと併用して効果的に学習課題が提示できるように工夫を行った。ワークシートについては、単なる基本的事項の確認となる単語の記入ではなく、自分の考えを文章や箇条書きなどの方法でまとめることができるよう意図的に設問と枠のみの体裁に整えることにした。

## 5 検証授業

検証授業においては、探究する課題について、ユニバーサルデザインによる手だてを取り入れた授業を展開した。検証授業後には事後調査を行った。結果、生徒が求めている手だてを分析して意図的・計画的に取り入れることで、図2のように生徒の学習に対する意欲を高めるこ

とがあることが分かった。また「説明にビデオや写真を使ってもらうことで、学習の目標が分かりやすくなり、またその目標を実現できたと思いますか」という事後調査において、両校ともに約8割の生徒から「思う」「やや思う」という肯定的な回答を得たことから、生徒自身が学習の目標を実現できたと考える授業を展開できる可能性が大きいことが分かった。

図2 検証授業前と授業後の生徒に対する調査の結果



### 第3 研究の成果

- 1 病弱教育の視点を取り入れた探究課題を意図的・計画的に授業に取り入れることで、生徒が意欲的に授業に取り組むことができ、学習目標の達成につながったこと
- 2 地域の通常の学級におけるユニバーサルデザインによる単元指導計画と学習教材を開発・提案し、実際に地域の学校の授業担当者と協議を行うことで、互いの連携が深まったこと

地域の学校と連携した中学校社会科の一単元の単元指導計画と教材開発を行った経過については、「教材開発のための地域の通常学級との連絡シート」を作成した(表3)。連絡シートにより、通常の学級と特別支援学校それぞれの視点から、より効果的な教育内容・方法の充実を実現するための検討事項の経過を整理することで、効率的な協議を進めることができた(表4)。

表3 教材開発のための地域の通常学級との連絡シート[抜粋]

|                   | 第4回打ち合わせ                                | 検証授業                                      |
|-------------------|---|---|
| 提案者<br>特別支援学校     | ○1単位時間ごとの授業立案シートの提案<br>○事前アンケート調査の分析の提示 | ○検証授業における手だての確認について<br>○授業観察の視点の提案        |
| 地域の<br>授業担当者      | ○1単位時間ごとの授業立案シートの手だての検討                 | ○授業観察における生徒の反応や手だての有効性や課題の記録              |
| 次回までの<br>検討事項について | ○検証授業で使用する教材やワークシートの再提案                 | ○事後アンケート調査の集約と分析<br>○検証授業を踏まえた次時からの手だての考察 |

表4 協議における手だての確認点について

| 主な確認事項   |   |
|----------|---|
| A<br>中学校 | ○「指示を端的に分かりやすくすること」「学習活動を板書だけではなくICT教材等で掲示すること」が生徒にとって有効な手だてになる。                      |
| B<br>中学校 | ○「話し方や書き方の例示」を行うことについては、取り入れない。<br>・生徒の自由な発言やワークシートへの記述が、より意欲や探究心を向上させることにつながると考えるため。 |

### 第4 今後の課題

- 生徒が社会科の授業に求める手だての継続的な調査とそれに応じた教材の開発をすること
- 課題の提示に対する生徒の反応を学習活動に有効に結び付けて、本時や単元の目標を達成するための手だての開発・検証をすること